

日本物理学会領域 2 運営会議 議事録案

日時: 2022 年 3 月 19 日(土) 18:00-19:00

Zoom オンライン開催

司会: 領域 2 代表 稲垣、参加者 23 名、書記: 沼田

報告・議論事項

- 1) 2022 年 4 月からの役員体制・役割分担
- 2) 新役員の推薦と領域代表, 領域副代表の候補について
- 3) 2021 年秋季大会学生優秀発表賞に関する報告
- 4) 若手奨励賞 (第 16 回 (2021 年)) に関する報告
- 5) 米沢富美子記念賞授賞について
- 6) 2022 年秋季大会 シンポジウム・招待講演等の提案
- 7) 領域委員会報告
- 8) 確認事項
- 9) 講演件数の推移
- 10) 講演概要集提出率
- 11) その他

報告・議論内容

- 1) 2022 年 4 月からの役員体制・役割分担

下記体制を承認した.

領域代表 千徳 靖彦 (大阪大学)

領域副代表 稲垣 滋 (九州大学)

領域副代表 藤堂 泰 (核融合科学研究所)

運営委員 (小林, 佐野, 沼田, 本島, 相羽, 福田)、役員 (藪内, 四竈, 齋藤)

- 2) 新役員の推薦と領域代表, 領域副代表の候補について

10 月からの役員として以下の 3 名を推薦することを承認した.

佐々木 真 (日大)、三瓶 明希夫 (京都工繊大) 菊池 崇史 (長岡技科大)

2023 年度の代表・副代表は 10 月頃に推薦する.

- 3) 2021 年秋季大会学生優秀発表賞に関する報告

34 名の応募者から, 以下 5 名を選出. なお, 2021 年秋季大会から受賞回数の上限が 2 回までとされた.

- Adulsiriswad Panith (Grad. Sch. of Energy Sci., Kyoto Univ.)
「Study of the Interaction between Peripheral Energetic Particle Mode and Energetic Particles in Heliotron J with MEGA, a Hybrid MHD Simulation with Free Boundary Condition」
- 太田 雅人 (阪大レーザー研)
「相対論的電子ビーム電場の超高速時空間分布計測」
- 川崎 昂輝 (阪大レーザー研) (2回目)
「ダイヤモンドカプセルの直接照射型レーザー核融合への適用」
- 國嶋 友貴 (東北大院工)
「非自己維持直流放電プラズマ中の窒素振動分布の時間発展」
- 茶谷 智樹 (京大院工)
「ヘリウム原子輝線のゼーマン効果高感度計測を利用した分光と輸送計算の局所比較」

4) 若手奨励賞 (第 16 回 (2021 年)) に関する報告

6 名の応募者から、以下の 2 名を選出.

- 川面 洋平 (東北大学学際科学フロンティア研究所)
研究題目: 天体プラズマ乱流中のイオンと電子の加熱配分に関する研究
- 藤井 恵介 (京都大学工学研究科)
研究題目: 多電子原子や重元素核からの発光スペクトルに対する統計的モデリング

審査委員会から、審査様式や項目の見直しが望ましいとの意見があった。ワーキングで改定案を検討し次回運営会議で審議することが承認された。

5) 米沢富美子記念賞授賞について

第 3 回の受賞者が報告された。領域 2 から推薦の岩田夏弥 (大阪大学) が受賞。

6) 2022 年秋季大会 シンポジウム・招待講演等の提案

企画講演 0 件提案

招待講演 1 件提案

田中和夫 (ELI-NP)

シンポジウム 1 件提案

「動的秩序構造の発生・持続・進化をとらえるメタステート学の創成に向けて」(説明: 千徳) 領域 11, 12 との共催予定

例年締切は 5 月初旬なのでそれまでに提案書を作成する。

7) 領域委員会報告

オンライン開催の是非について議論した。

学会としては、場所確保の手間がかからないことからオンライン開催を視野に入れているという事情があるようだ。なお、今後の予定として、2022年秋は東工大（オンラインまたは現地）、2023年春は春季大会オンライン開催、秋が年次大会になることが理事会で決定している。

主な意見

- ・ 海外から参加しやすいので是非開催してほしい。学会のレベル維持のため必要。
- ・ 複数講演可能な秋季大会がオンラインだと別領域で講演しやすい。
- ・ オンライン開催は、子育て支援や男女共同参画の助けになる。
- ・ 事務手続きを考えると年度末の春がオンラインだと助かる。
- ・ 家庭の都合を考えると土日は避けてほしい。
- ・ オンラインでは学会からのサポートがなく役員の負担が大きい。他の学会ではサポートがあるようなので、物理学会にも対応してほしい。
- ・ 若い人にとっては、対面で顔を知ってもらい、ネットワークを形成する機会がある方が望ましいので、完全オンラインはよくない。

8) 確認事項

メーリングリストの運用ルールが再確認された。

- ・ PlasmaMLの運用：添付ファイルは1MB以下。受賞報告可。
- ・ 不適切なメールは領域2代表の責任下で役員会の了承のもと削除できる。

9) 講演件数の推移

一般講演 105 件。

オンラインになって比較的盛り返して、100 件位をキープ。

100 は最低ライン。減ると若手賞も減るので、増えるように宣伝を促す。

講演者数減少の対策を考えるには、会員数の把握が必要との意見があった。

領域2の会員数はMLの登録数でわかる。

10) 講演概要集提出率

領域2は118件中115件提出。

11) その他

金子から国際会議 ICRP-11/GEC 2022 Joint Conf.が紹介された.
IUPAP100 周年と IYBSSD2022 が紹介された.

懇親会

日時：3月19日（土）19:30-21:00 （運営会議終了後）

場所：オンライン

以上